

令和4年10月27日(木) 建通新聞に「第54回技能コンクール」の記事が掲載されました。この大会は、神奈川県を担う建設職人を育成する目的として、年齢問わず技術を競い合う大会です。

今年は20代の若手から50代前半の参加者が、制限時間3時間で出題された題材を作成し、各部門ごとに金・銀・銅メダルと敢闘賞が授与されました。

閉会式では、三上会長が「イベントを通じてこれからも、技能育成の啓発活動に取り組みたい」と述べられました。

(3) 2022年(令和4年)10月27日<木曜日> 建通

補正▽工種「とび・土・園」の登録▽「解体工事」について地元業者の「費」の最低制限価格設定入札が可能な条件にするを他の工事と同等にする

神奈川県の未来を担う建設職人を育成「神奈川県産業労働局と神奈川県職業能力開発協会、神奈川県技能士会連合会(神技連)などにより第54回技能コンクールが開かれた。左官、建築大工など各部門で、20代前後の若手から50代前半の参加者が日ごろ培った技術を競い合った。

15日に横浜市旭区内で開かれた大会は、新型コロナウイルス、準優勝の銀メダルは産業人材課長が金メダル、清司専務理事が手渡す。一きよの大会参加者はこれからの神奈川県産業発展を支える大きな力」と述べた。

また、大会運営に尽力した神技連の三上誠司会長は、開会式では参加者がリラックスして競技に臨める

座間市は26日、「2022年度優良工事表彰」の表彰状授与式を行った。写真。21年度に完成検査が完了した工事のうち、2件の工事を優良工事として表彰し、施工した2社に佐藤弥斗市長が表彰状を手渡した。

佐藤市長は「表彰した工事は、技術力と技術者独自の創意工夫を駆使して優れた品質や安全などを確保できた特に優良な工事。資材高騰や担い手確保などの問題で市内事

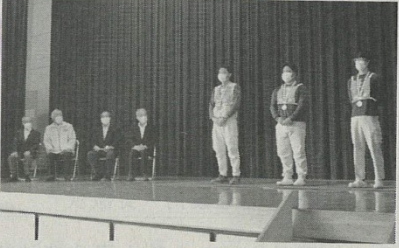
よつにあいさつ。閉会式では、力を出し切った参加者の健闘をたたえながら、「イベントを通じてこれからも、技能育成の啓発活動に取り組みたい」と述べた。

まつりに参加し建設業アピール

愛川建協

愛川町建設業協会(鈴木匡会長)は23日、第36回愛川町まつりとまつりに参加し、子供向けミニ重機の体験試乗やパネル展

神技連など
技能コンクール開く
年齢問わず技術競う



表彰式の様子